

## News Release

平成 22 年 3 月 16 日

報道関係各位

クインタイルズ、日本のラボラトリーを移転・拡大しオープン  
新たな自社施設を東京に開設し、アジアのラボのネットワークを拡充

米クインタイルズ（本社：米国ノースカロライナ州、会長兼 CEO：デニス・ギリングス）は、日本およびアジアにおけるビジネスの継続的な成長と拡大に対応して、日本国内のグローバル・セントラル・ラボラトリーを埼玉から東京に移転したと発表しました。

新しい自社の臨床検査施設は、検査項目を拡大し特に初期的には安全性試験にフォーカスします。ラボでは、3 月 1 日より臨床試験の検体を受領し検査を開始しました。同ラボは既に、糖尿病検査に関し、米国グリコヘモグロビン標準化プログラム（NGSP）から HbA1c 検査機関の認定を取得しています。

クインタイルズ・グローバル・セントラル・ラボラトリーズ・アジアのバイスプレジデント兼ゼネラルマネジャーのアラン・オングは、「今回のラボの移転・拡大は、アジア太平洋地域における臨床開発の成長が原動力となっています。我々は、患者さんにより早く新薬をお届けするために、顧客を支援し新薬の臨床開発における複雑性をできるだけ低減させるよう引き続き多大な努力を傾けていきます。ラボでは検査項目を拡充し、高い品質の顧客サービスの提供に努めてまいります。」と述べています。

クインタイルズは、標的療法およびその他の個別化医療の進展に係わる臨床開発をサポートする新しいバイオマーカー分析法の開発におけるリーダーです。現在、中国、スコットランドおよびアメリカのラボでは、免疫組織化学(IHC)と FISH 検査が可能です。クインタイルズのバイオマーカー検査は、がん細胞の増殖と変異に影響を与える標的遺伝子の特定に使用されています。

新しい日本のラボは、米国病理学会（CAP）の認定を取得する予定です。クインタイルズのラボは、米国病理学会（CAP）より認定された世界最大のセントラル・ラボラトリー・ネットワークであり、アメリカ、ヨーロッパ、南アフリカ、インド、中国、シンガポールに臨床的に調和のとれたラボのネットワークを有しています。また、アルゼンチンとブラジルには関連ラボがあり、最近では中国に解剖病理学ラボを設置しました。



\*

クインタイルズについて

クインタイルズは、医薬品やバイオ製品などのクリニカル、コマーシャル（営業・マーケティング）、コンサルティング、およびキャピタル（投資）ソリューションにおいて総合的なサービスを世界中で提供する企業です。世界 60 カ国に 20,000 人以上の従業員を擁し、患者さん、安全性、倫理に対し確固たるコミットメントを持って業務に専念しています。クインタイルズは、変貌を遂げる時代環境の中で、リスクを管理し機会を捉えるために世界中の製薬・バイオ企業を支援しています。詳細は、ウェブサイトをご覧ください。

[www.quintiles.com](http://www.quintiles.com).

\*

本件に関するお問い合わせは下記にお願いします

クインタイルズ・トランスナショナル・ジャパン株式会社

広報部 林 秀樹

電話：03-3531-9628/FAX：03-3531-9148（携帯：090-5360-5008）

Email：hideki.hayashi@quintiles.com